

⑥刊行物に関する事業一覧

刊行物の名称	担当部門	頁
『美術研究』(美 14)	美術部	107
『日本美術年鑑』(美 10)	美術部	107
『芸能の科学』(*芸 11)	芸能部	107
『保存科学』(保 09)	保存科学部	108
『東京文化財研究所年報』(*情 03)	情報調整室	108
近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『第 13 回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会—鉄道周辺施設の保存修復と活用～ヨーロッパにおける事例』(*修 01)	修復技術部	108
第 26 回文化財の保存に関する国際研究集会報告書 『うごくモノ—時間・空間・コンテクスト—』(美 22)	美術部	109
第 11 回アジア文化財保存セミナー「文化遺産の保護制度とその運用—組織、人、資金」報告書『Public Systems for the Protection of Cultural Heritage: Organization, Human Resources and Financial Resources—Proceedings of the 11th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage』(セ 28)	国際文化財保存修復協力センター	110
国際文化財保存修復研究会報告書 (セ 12)	国際文化財保存修復協力センター	111
『民俗芸能研究協議会報告書』(*芸 11)	芸能部	112
在外日本古美術品保存修復協力事業報告書 『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成 15 年度 (絵画/工芸品)』(*修 05)	修復技術部	112
蔵書目録『東京文化財研究所蔵書目録 3 日本東洋古美術関係 和文編』(情 05)	情報調整室	113
画像形成技術の開発に関する研究中間報告書 『Light & Color—絵画表現の深層をさぐる—』(*情 01)	情報調整室	114
『光学的手法による国宝・源氏物語絵巻調査報告書』(美 23)	美術部	114
『明治期府県博覧会出品目録 明治四～九年』(美 24)	美術部	114
『Historical Polychromy: Polychrome Sculpture in Germany and Japan』(保 15)	保存科学部	115
『文化財の生物被害防止ガイドブック—臭化メチル代替法の手引き (平成 15 年度版)』 『文化財生物被害防止ガイド 1、2』(保 16)	保存科学部	115
国際研修「漆の保存と修復」報告書 『Urushi 2003, International Course on Conservation of Japanese Lacquer』(*修 14)	修復技術部	116
イギリスにおける文化財保護制度と保存活用に関する調査研究報告書 叢書「文化財保護制度の研究」『ヨーロッパ諸国の文化財保護制度と活用事例』(イギリス編) (セ 27)	国際文化財保存修復協力センター	116
『東寺観智院蔵五大虚空蔵菩薩像—美術研究作品資料—第二冊』(*美 03)	美術部	117
『日韓共同研究報告書 2003 環境汚染による文化財への影響と修復技術の開発研究』(*修 03)	修復技術部	117
『未来につなぐ人類の技 3 鉄道の保存と修復 I』(*修 01)	修復技術部	117
『Conservation of Vessels』(*修 01)	修復技術部	118
『文化財の防災計画に関する研究—日光東照宮五重塔振動測定調査報告』(*修 13)	修復技術部	119

『東文研ニュース』（*情 03）	情報調整室	119
『東京文化財研究所概要』（*情 03）	情報調整室	119

*注 ・『芸能の科学』及び『民俗芸能研究協議会報告書』は、芸能部出版関係事業（⑥芸 11）の一環として実施した。

・『東京文化財研究所年報』及び『東文研 NEWS』・『東京文化財研究所概要』は、広報企画事業（③情 03）の一環として実施した。

・近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『第 13 回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会—鉄道周辺施設の保存修復と活用～ヨーロッパにおける事例』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①修 01）の一環として実施した。

・在外日本古美術品保存修復協力事業報告書『在外日本美術品修復協力事業修理報告書 平成 15 年度（絵画／工芸品）』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②修 05）の一環として実施した。

・画像形成技術の開発に関する研究中間報告書『Light & Color—絵画表現の深層をさぐる—』は、画像形成技術の開発に関する研究（①情 01）の一環として実施した。

・国際研修「漆の保存と修復」報告書『Urushi 2003, International Course on Conservation of Japanese Lacquer』は、国際研修 漆の保存と修復（⑤修 14）の一環として実施した。

・『東寺観智院蔵五大虚空蔵菩薩像—美術研究作品資料—第二冊』は、東アジア地域における美術交流の研究④重要美術作品資料集成に関する研究（①美 03）の一環として実施した。

・『日韓共同研究報告書 2003 環境汚染による文化財への影響と修復技術の開発研究』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①修 03）の一環として実施した。

・『未来につながる人類の技 3 鉄道の保存と修復 I』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①修 01）の一環として実施した。

・『Conservation of Vessels』は、近代の文化遺産の保存修復に関する調査研究（①修 01）の一環として実施した。

『文化財の防災計画に関する研究—日光東照宮五重塔振動測定調査報告』は、文化財の防災計画に関する研究（①修 13）の一環として実施した。

『美術研究』(⑥美 14-03-3/5)

昭和7年1月、東京文化財研究所の前身である美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、70年近くにわたって、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関連する西洋美術について、研究論文・図版解説・研究資料等を掲載し続けている。本年度は380、381、382号を刊行した。

『美術研究』380号

(論 文)「自娛」と「写意」の世界—朝鮮末期における閩巷文人の絵画活動と閩創作傾向—
 洪善杓(石附啓子訳)
 (研究ノート)青木繁と岸田劉生 田中 淳

『美術研究』381号

(論 文)雪舟入明—ひとりの画僧におこった特殊な事件— 綿田 稔
 (論 文)旅する画家・藤田嗣治—日仏のあいだのアメリカ 林 洋子
 (書 評)思い出と記録—『木村荘八日記[明治篇]校註と研究』を読む 浅野 徹

『美術研究』382号

(論 文)神幻変化—福建の画家・陳子和にみる明代道教水墨画の展開
 石守謙(巖雅美訳)
 (図版解説)法然上人像(伝藤原隆信筆) 京都・知恩院蔵 津田徹英
 (展覧会評)青木繁と近代日本のロマンティズム 田中 淳



『美術研究』

『日本美術年鑑』(⑥美 10-03-3/5)

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が昭和11年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。昨年刊行した平成12年版において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成14年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成14年版は、下記のような構成をとり、B5判254ページとなった。

- 平成13年美術界年史
- 美術展覧会(企画展、作家展、団体展)
- 美術文献目録
 - 定期刊行物所載文献
 - 美術展覧会所載文献(企画展、作家展)
- 物故者



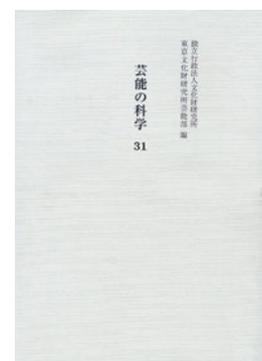
『日本美術年鑑』

『芸能の科学』(⑥芸 11-03-3/5: 芸能部出版関係事業の一環として実施)

古典芸能や民俗芸能に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『芸能の科学』第31号

鎌倉時代に制作された横笛—仏像胎内に納入された三例を中心に—
 高桑いづみ・野川美穂子
 ミノコオドリの系譜—鹿島踊・弥勒踊の原像から距離を置いて— 俵木 悟
 文楽首割りについて 児玉 竜一
 ブロック別民俗芸能大会出演演目一覧 宮田 繁幸
 東京文化財研究所芸能部所蔵 義太夫節稽古本の解説等について 鎌倉 恵子
 東京文化財研究所芸能部所蔵 義太夫節稽古本目録 鎌倉 恵子



『芸能の科学』

『保存科学』(⑥保 09-03-3/5)

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。

『保存科学』第43号

金属の伝統的着色について(1) 一銀の古色仕上げとその色変化—

加藤 寛・佐野千絵・齋藤潮美・内堀 豪

装潢における打ち刷毛の効果—接着力を中心に—

早川典子・君島隆幸・楠 京子・岡 泰央

透過 X 線撮影における FCR とフィルムの濃度特性の比較 松島朝秀・三浦定俊

石灰の湿式消化条件、熟成期間と粒度分布 大野 彩・佐野千絵

燻蒸剤・忌避剤などが和紙の酸性度と色彩に及ぼす影響

佐野千絵・吉田和成・宮澤淑子・三浦定俊

臭化メチル製剤による燻蒸後の資料への臭素の残留について—素材試験—

間渕 創・佐野千絵



『保存科学』

鎌倉市・百八やぐらの劣化と水環境

朽津信明・森井順之・范 子龍・秋山純子

江戸東京博物館「銀座煉瓦街遺構」の劣化と保存

朽津信明・森井順之

ハンディ蛍光 X 線分析装置による高松塚古墳壁画の顔料調査

早川泰弘・佐野千絵・三浦定俊

高松塚古墳の微生物調査の歴史と方法

木川りか・佐野千絵・三浦定俊

高松塚古墳石室内の温湿度および墳丘部の水分分布調査

石崎武志・佐野千絵・三浦定俊

国宝・高松塚古墳壁画保存のための微生物対策に関わる基礎資料

—パラホルムアルデヒドの実空間濃度と浮遊菌・付着菌から見た微生物制御— 佐野千絵・間渕 創・三浦定俊

重要文化財「細川家波奈之丸舟屋形」の保存環境調査

石崎武志

展示公開施設の館内環境調査報告—平成 14 年度—

石崎武志・佐野千絵・三浦定俊

文化財科学の分野の野外調査における地理情報システムの応用およびデータベースの構築の手法

—国際文化財保存修復協力センターの実例—

二神葉子・隈元 崇

欧米における文化財の修復士—イタリアにおける「文化財修復士」資格を中心に—

大竹秀実・二神葉子

『東京文化財研究所年報』(③情 03 の一環として実施)

広報企画事業 (③情 03) の一環として実施した (67 頁参照)。

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『第 13 回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会—鉄道周辺施設の保存修復と活用—ヨーロッパにおける事例』(①修 01 の一環として実施)

< Contents >

“Some Experiences with Historic Railway Architecture at the Berlin Museum of Transportation and Technology, Germany” Alfred Gottwaldt

“Displays in Context: Permanent Way and Historic Railway Stock” Jim Rees

“Preservation of Railway Constructions and Rolling Stock in Switzerland” Hans-Peter Bärtschi

“Conservation and Protection of Historic Railway Infrastructure in Germany” Rolf Höhmann



『第 13 回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会—鉄道周辺施設の保存修復と活用—ヨーロッパにおける事例』

第26回文化財の保存に関する国際研究集会報告書『うごくモノ—時間・空間・コンテクスト—』(⑥美 22-03-1/1)

2002年12月4日から6日まで、東京国立博物館平成館大講堂にて美術部の担当で行った第26回文化財の保存に関する国際研究集会『うごくモノ—時間・空間・コンテクスト—』の報告書を下記の内容で刊行した。

【目次】

刊行にあたって

渡邊明義

序にかえて

渡邊明義

この本のなりたちについて

山梨絵美子・津田徹英

基調講演 「うごくモノ—時間・空間・コンテクスト—」

鈴木廣之

[第一セッション モノの年輪]

趣旨説明

勝木言一郎

〈辻が花〉裂四百年の伝歴—世俗の衣服から博物館の収蔵品へ—

テリ・五月・ミルハプト

神代石の収集

内田好昭

題跋の追加とその価値

松原 茂

植民地朝鮮に〈日本の古代〉を収集する—東京人類学会と比較文化的枠組み

裴 炯逸

皇帝コレクションから国宝へ—中国美術と国立故宮博物院の創設

石 守謙

討議一

[第二セッション モノの旅行記]

趣旨説明

塩谷 純

《ゲルニカ》のオデュッセイア

林 道郎

アメリカにおける羅漢図—大徳寺五百羅漢図の旅

グレゴリー・P・レヴィン

ストックホルムから東京へ—二〇世紀初頭、中国古画の国際市場における

E.A.スツラヘルネクの二つのコレクション

洪 再新

旅の記憶—輸出漆器の居場所

山崎 剛

作品のアイデンティティと画家の実存—西金居士筆、張思恭筆とされる仏画の場合

井手誠之輔

芸能における「移動」の意味—民俗芸能の場合を中心に

宮田繁幸

都鄙の振幅—青木繁の場合

田中 淳

討議二

[第三セッション モノと人の力学]

趣旨説明

津田徹英

敦煌大仏の生命—コンテクストの変化と機能の変化

寧 強

憧憬のなかの京都：うごく〈モノ情報〉と価値形成—日本中世の土師器における

中井敦史

八重山ミンサー—沖縄南方の木綿細帯とその用途・階級・意味を超越した変容

アマンダ・スティンチカム

とこしえに地上から消えた千島アイヌとその文化—日本人が自ら葬り去った異文化

佐々木利和

セヴェラルネス（事物の多様性を可能にする転用過程のメカニズム）

—歴史的住居の転用研究から

中谷礼仁

「日常性への下降」から「芸術性への上昇」へ

—赤瀬川原平・他《模型千円札事件》における作品空間の生成と移動

富井玲子

討議三



第26回文化財の保存に関する国際研究集会報告書

第 11 回アジア文化財保存セミナー報告書 (英文) (⑥セ 28-03-1/1)

Public Systems for the Protection of Cultural Heritage: Organization, Human Resources and Financial Resources—Proceedings of the 11th Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage

2002 年 11 月 11 日 (月) ～16 日 (土) に実施された「第 11 回アジア文化財保存セミナー」の報告書である。このセミナーは平成 13 年度から 5 年間の予定で「アジア諸国の文化財保護制度」をテーマとして行われているが、当該年度は特にアジア諸国の法律を実際に運用するための機構・組織、運用上の問題点等について、事例紹介・討議が行われた。この報告書は、各国の文化財保護に関する組織、人材、財源に関する発表と、質疑応答の内容をまとめたものである。

[目次]

PROGRAM

Concept of the Seminar (OKADA Ken): Public Systems for the Protection of Cultural Heritage: The Evolving Role of Cultural Heritage

Country Report of Japan (SAITO Hidetoshi): Organizational Structures and Operation System for the Protection of Cultural Properties in Japan

QUESTION AND ANSWER

Country Report of Korea (KIM Gwongu):

The Heritage Management System in Korea and Its Burning Issues

Country Report of Vietnam (NGUYEN Quoc Hung):

Public System for the Protection of Cultural Heritage and its Functioning in Vietnam: Organization, Administrative Activities, Human Resources and Financial

Country Report of Thailand (Pichya BOONPINON): Public System for the Protection of Cultural Heritage and its Functioning: Organization, Administrative Activities, Human Resources and Financial

Country Report of Philippines (Emelita V. ALMOSARA)

QUESTION AND ANSWER

Country Report of India (Amita BAIG): Cultural Heritage Management in India

Country Report of Sri Lanka (Jagath WEERASINGHE): Management of Cultural Property in Sri Lanka: an Overview

Country Report of Iran (Adel FARHANGI SHABESTARI): The Status of Administration and Budget in Combination with Laws and Regulations for Protection of Cultural Properties

QUESTION AND ANSWER

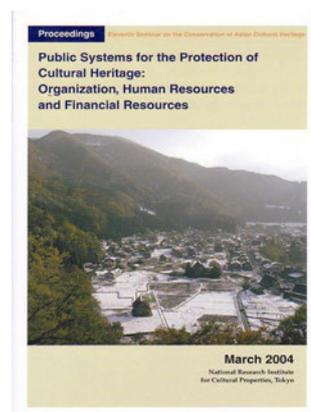
Country Report of China (LÜ Zhou): Development and Changes of China's Cultural Heritage Preservation System in the 20th Century

Overall Discussion (1)

Overall Discussion (2)

ANNEX

- Excursion (Gassho-style Houses in Shirakawa-go and Gokayama, Shoko-ji and Zuiryu-ji Temple)
- Photos
- List of Participants



第 11 回アジア文化財保存セミナー報告書

国際文化財保存修復研究会報告書 (⑥セ 12-03-3/5)

この報告書は、国際文化財保存修復研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容をまとめたものである。平成15年度は第13回、第14回研究会について、それぞれ報告書を作成した。

第14回国際文化財保存修復研究会報告書 (2004年3月発行)
 叢書 [文化財保護制度の研究] イラク文化遺産保護の地平線

[目次]

「序」 岡田健

第1部 (第14回国際文化財保存修復研究会)

「プログラム」

「司会者挨拶」 岡田 健

「主催者挨拶」 渡邊明義

「文化庁挨拶」 鈴木規夫

[1] 講演

「イラクおよびイラク国民における文化遺産の認識」

大野元裕

「イラクにおける建築遺産」

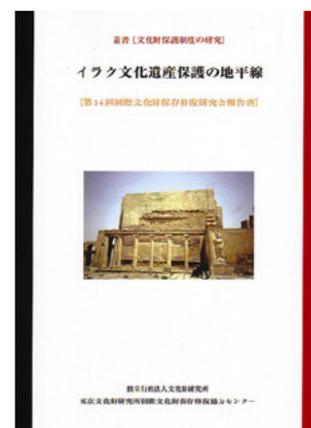
岡田保良

「イラクにおける文化財流出防止とその保護」

藤井秀夫

「西アジア考古学におけるイラク文化遺産の重要性」

西秋良宏



第14回国際文化財
 保存修復研究会報告書

〔2〕意見交換会—イラク文化遺産の保存・修復に向けて

第2部

「イラク文化財の現状〈イラク国立博物館〉」 青木繁夫

〔資料〕

「イラクの1975年改正古物法」

「ユネスコ第1回イラク会議文書」

「ユネスコ第3回イラク会議文書」

「講演者紹介」

「参加者名簿」

『民俗芸能研究協議会報告書』（⑥芸 11-03-3/5：芸能部出版関係事業の一環として実施）

芸能部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して民俗芸能の保護と継承について研究協議する会を開催している。第6回に当たる本年は「民俗芸能に関する情報の発信と共有」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

テーマ「民俗芸能に関する情報の発信と共有」

1. 序にかえて 渡邊明義（東京文化財研究所長）

2. 事例報告

*報告1 インターネット上での民俗芸能情報ホームページの運営の経験から

渡辺国茂（民俗芸能写真家・秋川歌舞伎あきる野座理事・

インターネットホームページ「わざをき通信」主宰）

*報告2 島根県古代文化センターの民俗芸能調査・記録事業への取り組み

中上 明（島根県古代文化センター主任研究員）

*報告3 パブリック・スペースでの民俗芸能公演の試み—『まるきた伝統空間』を例に—

中藪規正（株式会社ノンフィクションチャンネル文化情報事業部長）

清水広子（財団法人東日本鉄道文化財団事業部主任）

香月浩一（株式会社ソニー・ミュージック コミュニケーションズ

クリエイティブ本部クリエイティブディレクター）

嶋 隆則（株式会社ソニー・ミュージック コミュニケーションズ 企画開発部イベント制作課長）

*報告4 『文化遺産オンライン構想』について

木村哲規（文化庁文化財部伝統文化課文化財保護企画室）

3. 総合討議

4. 参考資料

5. アンケート集計結果

6. あとがき



民俗芸能研究協議会報告書

在外日本古美術品保存修復協力事業報告書

『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成15年度（絵画／工芸品）』（②修 05の一環として実施）

平成14年度、在外日本古美術品保存修復協力事業の対象作品の修復に関する報告書。平成16年3月29日発行。

・報告書の刊行にあたって

渡邊 明義

・在外日本古美術品の事業報告

・カラー口絵【絵画】

〔絵画篇〕

- 1 海北友松筆「琴棋書画図屏風」ネルソン・アトキンス美術館
作品解説 鈴木 廣之
- 2 伝狩野山楽筆「四季耕作図屏風」(田起こし苗床) ミネアポリス美術館
作品解説 鈴木 廣之
- 3 伝狩野山楽筆「四季耕作図屏風」(刈入れ) ミネアポリス美術館
作品解説 鈴木 廣之
- 4 「地藏菩薩像」大英博物館
作品解説 勝木言一郎
- 5 「騎獅文殊菩薩像」ベルリン東洋美術館
作品解説 津田 徹英
- 6 雲谷等益筆「陶淵明林和靖図屏風」ハンブルク美術工芸美術館
作品解説 綿田 稔
- 7 「清水宇治図屏風」ベルン歴史博物館
・カラー口絵【工芸品】
- 8 「草花蒔絵螺鈿鎌倉彫筆筒」フィラデルフィア美術館 勝又 智志
- 9 「兜(島津家伝来)」メトロポリタン美術館 田口 義明

Information and Glossary related to Japanese Helmets

Balazs Lencz and Michiko Matsubara



在外日本古美術品保存修復
協力事業報告書

蔵書目録 (⑥情 05-03-3/5)

『東京文化財研究所蔵書目録 3 日本東洋古美術関係 和文編』

現在、東京文化財研究所が所蔵する図書は約 11 万冊、雑誌は約 2,800 種におよぶ 9 万冊を数えている。資料閲覧室では、所蔵図書資料の目録作成を 5 年計画で進めており、2003 年度は、既刊の第 1 編『西洋美術関係 欧文編・和文編』(2002 年 3 月)、第 2 編『日本東洋近現代美術関係』(2003 年 3 月)につづく第 3 編として、『東京文化財研究所蔵書目録 3 日本東洋古美術関係 和文編』を刊行した。

本編は、東京文化財研究所の所蔵する日本東洋古美術関係の図書のうち、2003 年 3 月 31 日までに登録された和文図書 7,348 件、簡易装丁図書 863 件の合計 8,211 件を収録し、口絵図版では、収録された貴重図書を中心に解説を付している。

収録する日本東洋古美術関係図書は、これまでの 2 編の蔵書目録で収録した、西洋美術関係図書・日本東洋近現代美術関係図書とともに、当研究所の図書の中核をなしている。これらの図書は、研究所創立に係わった矢代幸雄(1890-1975)や正木直彦(1862-1940)、所員の尾高鮮之助(1901-1933)と隈元謙次郎(1903-1973)、美術史家の中川忠順(1873-1928)、金工家香取秀真(1874-1954)、版画家織田一磨(1882-1956)らの蔵書が母胎をなしている。

解題として、「序—中川忠順と研究所の蔵書—」の一文(情報調整室編)を掲載し、中川文庫及び中川忠順の来歴及び当時の美術史研究における中川の業績を紹介している。

また利用者の便をはかるため、編著者名索引、写本版本細目の 2 種を末尾に付した。



『東京文化財研究所蔵書目録 3
日本東洋古美術関係 和文編』
2004 年 3 月刊行 口絵 29 点
702 頁

研究組織

○井手誠之輔、綿田 稔、中村 節子(以上、情報調整室)

『Light & Color—絵画表現の深層をさぐる—』(①情 01 の一環として実施)

協力調整官—情報調整室では、「画像形成技術の開発に関する研究」の中間報告書として『Light & Color—絵画表現の深層をさぐる—』を刊行した(B4版、本文40頁、カラー図版200頁。掲載作例11点)。「画像形成技術の開発に関する研究」は、1) 光に対する物性の検討、2) 光物性の画像化に関わる技術開発、3) 形成画像の汎用的な活用法(表示・出力)に関する条件整備を研究の核とし、広範な文化財研究を支援するために不可欠な研究画像を形成することを目的とするが、5年計画の中の3年間で、ほぼ1)及び2)の研究を終了し、すでに具体的な作例の調査撮影において実践している。この報告書では、フルカラーのメディアが一般的となった今日的観点から、美術史研究及び画像形成の立場の双方から、光と色の多様な関係性、その可視化、さらに可視化画像の今日的な意義について、12点の作例を使って視覚的に解説している。なお、資料として、天然有機色料サンプルの光物性を可視化した画像と、12点の作品解説のほか、英文による概要説明を付した。

実践例として使用した作例:

- ・バーミヤーン K 洞ヴォールト部分壁画断片 文化財保護振興財団
- ・高松塚古墳壁画 文部省所管
- ・仏涅槃図金剛峯寺
- ・源氏物語絵巻「竹河(二)」 徳川美術館
- ・春日権現験記絵(高階隆兼筆) 宮内庁三の丸尚蔵館
- ・山水人物蒔絵手箱 MOA 美術館
- ・水月観音像 鏡神社
- ・仏誕生図 本岳寺
- ・燕子花図屏風(尾形光琳筆) 根津美術館
- ・紅白梅図屏風(尾形光琳筆) MOA 美術館
- ・湖畔(黒田清輝筆) 東京文化財研究所
- ・菊(黒田清輝筆) ポーラ美術館



『Light & Color—絵画表現の深層をさぐる—』
撮影: 城野誠治

『光学的手法による国宝・源氏物語絵巻調査報告書』(⑥美 23-03-1/1)

受託研究を含め過去5年間行ってきた国宝『源氏物語絵巻(徳川美術館・五島美術館所蔵)』の調査研究の成果をまとめ報告書の刊行を行った。A4版、320頁(カラー256頁・本文64頁)

- | | | |
|-------------------------|-------------|-------|
| 徳川美術館の『源氏物語絵巻』 | 財団法人徳川黎明会会長 | 徳川 義宣 |
| 五島美術館の『源氏物語絵巻』 | 五島美術館館長 | 木下久一郎 |
| 『源氏物語絵巻』の科学的調査 | 東京文化財研究所所長 | 渡邊 明義 |
| X線透過撮影とエミシオグラフィによる分析結果 | | 三浦 定俊 |
| ポータブル蛍光X線透視による顔料分析 | | 早川 泰弘 |
| 可視域励起光を用いた蛍光反応に診る源氏物語絵巻 | | 城野 誠治 |



『光学的手法による国宝・源氏物語絵巻調査報告書』

『明治期府県博覧会出品目録 明治四年～九年』(⑥美 24-03-1/1)

美術部のプロジェクト「我が国の近代美術の発達に関する調査・研究④明治期博覧会出品目録に関する調査・研究」(①美 08)の報告書として今年度刊行された。B5判。本文842頁。明治4(1871)年の大学南校物産会から明治9(1876)年の富山展覧会まで、全国の府県で開催された博覧会42件の出品目録を翻刻した。今回の刊行により、同じく当研究所美術部が編纂した、既刊の『内国勸業博覧会美術品出品目録』(1996年)、『明治期万国博覧会美術品出品目録』(1997年)と合わせると、明治期に開催された博覧会の出品目録の主要な部分がここに網羅されたことになる。出品目録が収録された博覧会の年次と場所については、本年報の30頁に一覧表を掲げたので参照されたい。

また、全体の「解説」をはじめ、博覧会ごとに解題を付け、あわせて出品者索引を作成して、利用の便を図った。



明治期府県博覧会出品目録
明治四年～九年

『Historical Polychromy—Polychrome Sculpture in Germany and Japan
Historische Polychromie—/Skulpturenfassung in Deutschland und Japan』 (⑥保 15-03-2/2)

日独学术交流は平成 11 年度から 14 年度にかけて、中世の彩色木彫像の研究を中心に彩色文化財に関する共同研究を行ったが、その成果をバイエルン州立文化財研究所と共同で論文集（英語・ドイツ語）として出版した。ドイツ側は主にバロック、ロココ時代の彩色木造彫刻の彩色材料・技法とその保存について報告し、日本側は切金装飾や金泥塗りも含めた木造彫刻の彩色材料・技法およびそれらの歴史に関する研究を報告した。576 ページ（24.0×30.0cm）の大部な本で、日本の彩色彫刻の歴史や材料・技法の研究を世界に紹介する英文の研究書としては初めてのものである。



Historical Polychromy

『文化財の生物被害防止ガイドブック—臭化メチル代替法の手引き（平成 15 年度版）』

『文化財生物被害防止ガイド 1、2』 (⑥保 16-03-1/1)

文化財燻蒸ガスとして広範に用いられてきた臭化メチルは、オゾン層の保護のため 2004 年末に全廃される。かねてより当研究所ではその代替法についての研究を進め、すみやかな研究成果の公開を図るとともに、博物館・美術館等保存担当学芸員研修などを通して情報の普及を進めてきた。

本プロジェクトは、臭化メチル燻蒸代替法として当所が推進している総合的有害生物管理（Integrated Pest Management; IPM と略称）システムを全国に普及するために、研修などで副教材として使用できるテキストおよびビデオ教材を作成した。

(1) テキスト

「文化財の生物被害防止ガイドブック—臭化メチル代替法の手引き（平成 15 年度版）」

構成 基本的な考え方、①問題点を洗い出し、優先順位をつける、②衛生管理と侵入の防止、③害虫等の発見一日常点検、④管理の方法をつくろう、⑤もしも害虫等が発生したら、資料編

(2) ビデオ教材の作成

「文化財生物被害防止ガイド 1. 害虫対策の進め方」

「文化財生物被害防止ガイド 2. 対処法の実際」 各 30 分、VHS、制作協力 NHK エデュケーショナル

第 1 巻構成 <講義>IPM という考え方について、

<実演>IPM の進め方/問題点を見つける、衛生管理と遮断、害虫の発見、IPM の体制づくり

第 2 巻構成 <講義>対処法/大規模な被害への対処法、小規模な被害への対処法、

代替燻蒸剤の種類と特徴、蒸散性防虫剤について、処置後の管理

<実演>処理法の紹介/低酸素濃度処理法、二酸化炭素処理法、低温処理法

国際研修「漆の保存と修復」報告書 (⑤修 14 の一環として実施)

Urushi2003, International Course on Conservation of Japanese Lacquer

目次

刊行にあたって

講義

日本の漆芸品
 日本漆芸の歴史—揺籃期から鎌倉期まで—
 漆芸品の梱包と取り扱い
 化学の目から見た「うるし」
 漆芸保存修復の概念と事前調査
Radiography of Urushiware
 屈輪文犀皮の復元
 黒漆兜の修復
 風景蒔絵ナイフアーンの修復
 螺鈿法華経字唐花唐草文経箱の修復について

加藤 寛 (東京文化財研究所)
 高橋隆博 (関西大学)
 岩淵建夫 (東京国立博物館)
 早川典子 (東京文化財研究所)
 山下好彦 (漆芸修復家)
 三浦定俊 (東京文化財研究所)
 松本達弥 (漆芸作家・漆芸修復家)
 田口義明 (漆芸作家・漆芸修復家)
 勝又智志 (漆芸作家・漆芸修復家)
 北村 繁 (漆芸作家・漆芸修復家)

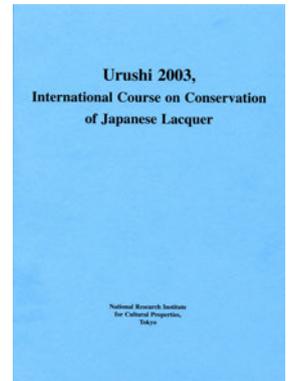
実技

一般的な修理工程
 漆芸修復のオリエンテーション
 クリーニング
 養生
 漆固め

山下好彦 (漆芸修復家)
 山下好彦
 山下好彦
 山下好彦
 山下好彦

研究旅行 木曾

プレゼンテーション



国際研修
 「漆の保存と修復」報告書

イギリスにおける文化財保護制度と保存活用に関する調査研究報告書 (⑥セ27-01-1/1)

叢書 [文化財保護制度の研究] 『ヨーロッパ諸国の文化財保護制度と活用事例』 (イギリス編)

序

斎藤英俊

イギリスの文化財保護制度

—法律・制度の歴史から最近の保護制度見直しの動きまで

稲葉信子

People and Places: The Future for England's Historic Environment

(人々と場所：イングランドの歴史的環境の未来)

Geoffrey Noble

English Heritage Involvement with Municipal Level Town Rehabilitation and Industrial Heritage Conservation, Including the Hands on Role in Projects and Current Issues with Materials and Craftsmanship (イングリッシュ・ヘリテージと地方自治体の町再生および産業遺産保全との関わり—プロジェクトにおける実践的役割及び資料と技能に関する現在の課題も含めて)

Charles Wagner / Robert Williams

英国ナショナルトラストの概要と課題

井上 敏

ストーンヘンジの保存と活用の現状と問題

二神葉子

現地調査記録

二神葉子

文化財保護関係法律

参考資料

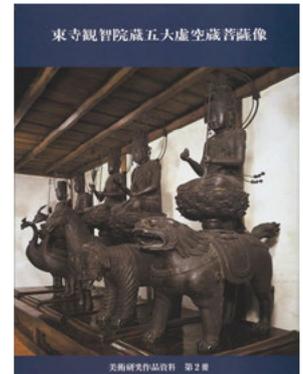


『ヨーロッパ諸国の文化財
 保護制度と活用事例』

『東寺観智院蔵五大虚空蔵菩薩像—美術研究作品資料—第二冊』(①美03の一環として実施)

美術部のプロジェクト「東アジア地域における美術交流の研究④重要美術作品資料集成に関する研究」の報告書。今年度は、唐より請来され、現在、京都の東寺観智院に所蔵される5体の木彫像の調査報告をまとめ、『美術研究作品資料』第2冊とした。判型はB4判。高度なデジタル画像処理を施した明瞭なX線写真と、現在可能な限りの印刷技術をもって再現したモノクロ、カラー口絵あわせて60頁。本文40頁。本文は次のように、論文、調書、中文要旨で構成されている。

- 岡田健「東寺観智院蔵五大虚空蔵菩薩像」
- 岡田健「【調書】五大虚空蔵菩薩像 五軀」
- 岡田健「東寺観智院蔵五大虚空蔵菩薩像 簡介(中文)」



『東寺観智院蔵五大虚空蔵菩薩像—美術研究作品資料—第二冊』

『日韓共同研究報告書 2003 環境汚染による文化財への影響と修復技術の開発研究』

(①修03の一環として実施)

目次

日本における石仏の指定と維持管理の現状	奥 健夫
大分県における磨崖仏の保存状況	山田 拓伸
国宝及び特別史跡・臼杵磨崖仏保存事業の経過	菊田 徹
臼杵磨崖仏保存調査—概要	川野邊 渉
国宝・臼杵石仏の保存に関する応用地質学的調査(2)	
—湧水量変動の計測—	朽津 信明
臼杵磨崖仏保存調査—劣化と環境	森井 順之
韓国における磨崖仏の現状とその保存方法について	金 思恵
韓国における石造文化財の生物学的損傷について	鄭 容在
中源彌勒里寺址石仏立像周辺保存環境に関する調査(Ⅱ)	洪 正基



『日韓共同研究報告書 2003 環境汚染による文化財への影響と修復技術の開発研究』

『未来につなぐ人類の技 3 鉄道の保存と修復Ⅰ』(①修01の一環として実施)

はじめに
刊行にあたって

目次

Part.1 鉄道文化財の保存と活用

- 近代の科学・産業文化財の保存と活用／富坂賢
- 日本の近代科学技術・産業遺産の保存と管理／富坂賢
- 鉄道車両の修復とその保存・活用／川野邊渉
- 鉄道文化財の保存／平野直樹



『未来につなぐ人類の技 3 鉄道の保存と修復Ⅰ』

Part.2 日本の鉄道車両保存と理念

- 野外博物館の車両保存の現状と課題／佐藤卓司
- 加悦 SL 広場の運営について／須藤洋右
- 大井川鉄道の鉄道財保存を顧みて／白井昭
- 蒸気機関車の保存と維持／杉本一正
- B20 形蒸気機関車の復元工事／山崎悦男
- 鉄道文化遺産に果たせるボランティアの役割／笹田昌宏

Part.3 欧米に見る鉄道車両の保存と思想

- ドイツ・イギリスの博物館に見る鉄道文化財の保存修復—ヨーク、ベルリン、ミュンヘンの3館を調査して
／川野邊渉
- 鉄道車両の保存／リチャード・ギボン
- ヴィクトリア女王のサロンカー／ヘレン・アシュビー
- ベルリン・ドイツ技術博物館における鉄道遺産修復の哲学と経験／アルフレッド・ゴットヴァルト
- ボランティアと専門家の協力が生んだプロイセン T3 機関車の修復／ヨアヒム・ブロイニンガー
- 腐朽を管理する—ホロコースト車両の修復／トーマス・A・トロザック
- 鉄道の保存に関する話
- 編集後記

『Conservation of Vessels』(①修01の一環として実施)

<Contents>

Foreword

About This Booklet

Part 1: Present Situation and Ideas of the Conservation of Ships

Protection of Maritime Cultural Properties in Japan: Its Present Condition and
Future Tasks.....Satoshi Tarashima

European Maritime Heritage (EMH): The European Umbrella for Traditional Ships
in Operation.....Anders Berg

Conservation of Boats and Ships: Present Situation and Tasks

.....Nobuyuki Kobori

Presentation on Ship Preservation in the United Kingdom.....John Robinson

Preservation of Steel Ships in the Netherlands by Using Them.....Hendrik Boland

Ship Preservation in Norway.....Johan Kloster

To Scrap or to Preserve: The Conservation of Large Steel Ships in Germany - History, Theoretical Discussion,
Examples and Experience -Ingo Heidbrink

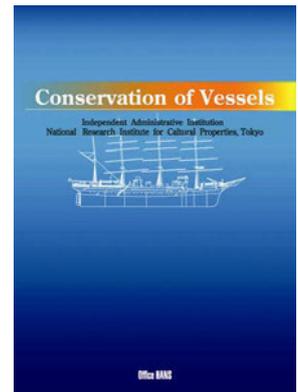
Part 2: Techniques and Methods of Conservation and Restoration

Preservation of Steel Ships in Scandinavia: Traditions Kept Alive.....Tom Rasmussen

Between Archaeology and Education: Two Different Examples for the Conservation of Maritime Objects at the
Deutsches Technikmuseum Berlin.....Volker Koesling

On the Collection and Conservation of Fishing Boats in Northern Japan: The Case of Michinoku Traditional
Wooden Boat Museum.....Masaaki Kon

Conservation of Small Wooden Fishing Boats.....Taizo Hiraga



Conservation of Vessels

On the Conservation of Steel Ships in Japan: Through the Cases of the "Soya" and the "Yotei-maru" in the Possession of the Museum of Maritime Science

.....Shunsuke Nakayama

Reconstruction of a Higaki Kaisen (Higaki Cargo Boat) and the Osaka Maritime Museum

.....Yoichi Nakamura

Documentation: A Tool in the Preservation and Restoration of Ships.....Dörte Münstermann

Preserved Ships and Maritime Museums in Japan.....John Robinson

Discussion on the Conservation of Vessels I

Discussion on the Conservation of Vessels II

Bibliography (Foreign Countries)

Editor's Postscript

『文化財の防災計画に関する研究—日光東照宮五重塔振動測定調査報告』(①修13の一環として実施)

第I章 調査の背景と目的

1-1 調査の背景

1-2 調査の目的

第II章 日光東照宮五重塔について

2-1 五重塔の起源と構造の変遷

2-2 日光東照宮五重塔の構造

2-3 日光東照宮五重塔心柱の構造

2-4 五重塔の耐震性

2-5 木造層塔振動測定に関する既往の研究

第III章 測定方法と解析方法

3-1 測定方法

3-2 測定概要と解析方法

第IV章 測定結果と考察

4-1 常時微動測定

4-2 自由振動減衰波形

4-3 フーリエスペクトル

4-4 伝達関数

4-5 固有振動数および減衰定数

4-6 塔身と心柱の挙動

4-7 自由振動時の水平変位軌跡

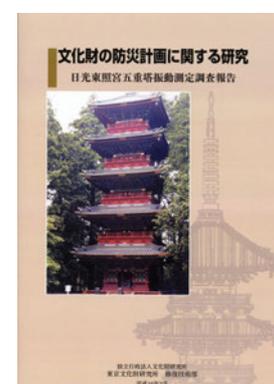
4-8 振動モード

4-9 層間水平変位と回転角の関係

4-10 測定値と解析値の比較検討

第V章 まとめ

参考文献



文化財の防災計画に関する研究
—日光東照宮五重塔振動測定調査報告

東文研 NEWS の発行 (③情03の一環として実施)

広報企画事業 (③情03) の一環として実施した (67頁参照)。

『東京文化財研究所概要』(③情03の一環として実施)

広報企画事業 (③情03) の一環として実施した (67頁参照)。